2020 年度　福島西高校の『総合的な探究の時間』

１　概要

福島西高校では、毎週水曜日６時限目の授業『総合的な探究の時間』でＳＤＧｓをテーマに学年・クラスの枠を超えて、全校生が主体的・協同的に取り組んでいる。

２　ＳＤＧｓとは

Sustainable Development Goals　持続可能な開発目標の略称である。2015 年 9 月の国連総会で採択された 2030 年に向けた具体的行動指針であり、17 の目標から成り立っている。

現在では、企業・行政・大学でも SDGs に積極的に取り組んでおり、取り組みに消極的な企業が投資も受けられないくらいの世界的なスタンダードになっている。

福島西高校でも年間を通して、週１時間の授業「総合的な探究の時間」で継続的取り組むことにより、世界の課題の把握と地域課題との共通性を発見するとともに自主的に課題解決方法を考え、実行することを目標としている。

３　実施内容

（１）活動動画の作成

今年度のテーマは、「実践」であった。コロナ禍により、様々な活動に制限がかかる中、コロナ禍だから何もできないのではなく、コロナ禍でもできること、コロナ禍だからできることをチャレンジ精神を持って見つけ、行動していくことが求め

られた。

２学年の４７のグループは、昨年度の調べ学習とポスターセッションで深めた知識を活かして、地域課題を解決するために自分たちで行動したことを自ら動画で撮影・編集し動画にまとめた。

完成した動画は、１・２年生が各自のスマートフォンで視聴しながら投票し、最優秀作品を決定した。なお、最優秀作品は、各種コンクール等に学校代表で応募し２つの大きな賞を受賞した。

「第 6 回全国ユース環境活動発表大会　東北大会」　優秀賞
「令和 2 年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト」　特別奨励賞
「福島市高校生フェスティバル 2020」参加

①　最優秀賞

目標１２　つくる責任つかう責任　「食品ロスを減らそう」
半谷　凜音　　大津　愛来　　吉田　有沙　　大橋　麻衣　（２年６組）

小学校に行って、給食の食品ロスを減らす取り組みを学んだだけでなく、自分たちで余った材料で食品ロス対策料理を創作した。それをプリントにまとめ、小学生にフィードバックするなど、実践のすばらしさが評価された。

②　創造賞

目標６　安全な水とトイレを世界中に「水質調査」
石塚大夢（１組）吉田湧斗　横山慶吾（４組）髙野壮太（２組）小野琉登（３組）

創造賞は、大人では考えつかない高校生らしい独創的なアイデアで活動することができたグループに贈られるものである。

荒川の水を化学的な手法できれいであることを証明したことが評価された。

③　表現力賞

目標１６　平和と公正をすべての人に「いじめの危険性」		
遊佐　亮太（１組）	渡邉　心那（５組）	大内　希良人（４組）
會田　愛菜美（６組）	川村　菜々子（５組）	安藤　舞花（６組）

表現力賞は、俳優さながらの迫真の演技で見る者を魅了した作品に贈られるものである。

身近に潜むいじめのリスクをリアルに表現するとともに、いじめを見かけたら傍観者ではなく、止めることができるかを問うた作品となっている。

④　社会貢献賞

目標１５　陸の豊かさを守ろう　「河川敷の掃除」			
八島遼馬（２組）	松川隼士（５組）	阿部元輝（２組）	佐藤悠羅（５組）

社会貢献賞は、今回の活動がどれほど社会の役に立っているかの観点で選出される賞である。

軽快なＢＧＭに乗ってただひたすらゴミを拾う動画ですが、清掃だって立派な社会貢献である。

⑤　その他

周囲に影響が大きかったその他の作品は数え切れないほどあるが、幾つか例を挙げる。

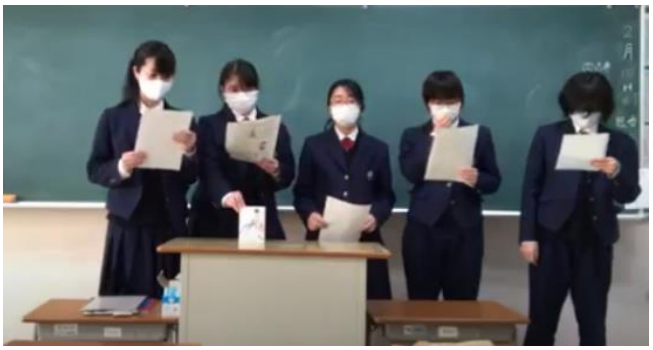
「目標４：質のたかい教育をみんなに　２班」では、先生方に質の高い教育のために授業中に工夫していることを聞いて廻る動画で、教職員が授業の振り返りに役にたった。

「目標５：ジェンダー平等を実現しよう　制服から」の班は、生徒への意識調査アンケートを校長先生にレクチャーする動画で、2020 年 10 月から認められた女子生徒のスラックス着用に関連した動画である。

「目標８：働きがいも経済成長も　心も体も大満足」の班は、コロナ禍で売り上げが減少する福島市の飲食店を取材したものである。

（２）ビブリオバトル

本校の読書アンケート（図書委員会まとめ）によると、生徒の約７割が読書の習慣がなく読書量が絶対的に不足している。大学入試時の小論文指導でも基本的な事項が分からず指導に苦労する場面もある。読書推進につなげるとともに、コミュニケーション力と情報活用能力の育成を図るため、２学期～３学期はビブリオバトルを開催した。



４　成果

（１）生徒の成長

ＰＢＬ（Project Based Learning）の成功により、生徒は他者と協力しながら学校外の懸命に仕事する人たちから学び、大きく成長したことが振り返りアンケートからわかる。

生徒による振り返りアンケートの分析から、年間の活動を通して、下記①～⑧の８つの力が身に付いた。生徒の記述（原文のまま）と合わせて記載する。

①　世界・社会の状況の変化やその課題を理解するちから

・本を読み、作者の体験や親の意見を通して今まで私が考えたことがなかったことに悩む人が多いと分かった。
・海のプラスチックの問題や食品ロスの問題など、SDGs を通して具体的に何が問題でどのような解決策があるのかを知ることができた。
・「武器より一冊の本をください」という本を読んで、どの国も日本のようにあたりまえに教育を受けることができないということがわかった。

②　物事を論理的に考えることができるちから

・当たり前に考えられてきたものを疑問に思うことでいろんな人の視点から考えられました。
・どう表現すれば伝わるのか、話題に出す順番はどうするのかなど考えながら進めた。
・SDGs の認知度が高くないことかを改善するために、SDGs という名前をたくさん人の目にもっとはいるようにしようと思った。

③　他人の前でも臆することなく自分の考えを発信できるちから

・ビブリオバトルの発表で本を読み自分たちが考えたことをちゃんと言えました。
・動画作成のための話し合いや本の紹介など、みんながお互いに意見を出し合った。
・班の動画の活動の案や、話し合いの話題など、自分から積極的に行えた。

④　仲間と協力・協働するちから

・本の内容のまとめを協力してできました。
・動画作成のときなど全員部活が違くそろうことが難しかったがメンバーで補いながら動画作成した。
・一人一人違う分野をちゃんと調べた。

⑤　取り組みについて、計画性を持って進めるちから

・コロナで夏休みが限られている中で、動画作成をしなければならないときに、時間を決め、意見をまとめ、スムーズにできた。
・期限までに動画を載せられるように、計画性を持って取り組むことができた。

・フィールドワークの予定日を皆で決めて役割を分担した。

⑥　自分で役割をみつけ、全力で取り組み、自信を持つちから

・割り当てられた役割をしっかりこなすことができた。
・ボランティアした時、ポスターを作る役割をした。
・本の訳をするときに２回読んで分かりやすく訳した。自分の考えをまとめた。

⑦　考えの違う意見を受け入れ、思いやるあたたかさを持つことができるちから

・自分と違う意見を聞くことで、新しい解決策を生みだすことができました。
・他の意見がでたときその意見についてもしっかり考えて話し合った。
・常に世界の苦しんでいる人のことを考え、どうしたら幸せな生活を送ることができるか、その人たちにとって必要をしていることを意見した。

⑧　社会の当事者としての意識を持ち、地域や世界の未来を真剣に考えることができるちから

・男女不平等の問題は身近でも起こっていると感じたので、自分ができることをやっていきたいと思った。
・今、世界ではなにかが起きているのか、差別に苦しむ人々や自ら問題解決のために頑張る人々、いろいろなことを知ることができた。
・実際にボランティアに参加したことで、自分にもできることがあるのだと思い、未来のための行動を考えることができた。

（２）保護者の理解

保護者の探究活動に理解を示していることが、学校評価のアンケートから分かった。

・子供から見せてもらった動画に感心しました。成長と学びを感じました。
・教職員の皆様には常日頃から子供たちの寄り添い、自主性・多様性を尊重した指導していただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

５　課題と今後の展開

（１）議論の深まり

１年次のポスターセッション、２年次のビブリオバトルでもグループによっては議論の深まりがあまりない。次年度は対話の手法を工夫し、「哲学対話」の導入を検討したい。

（２）進路へのつながり

総合型選抜、学校推薦型選抜において、探究で培ったことを十分に発揮できるようにしたい。次年度は今までの活動を個人論文にまとめさせたい。